

寺
ごよみ
七月
一日 お講・音沢

永代祠堂会

一四日 昼一時 お初夜
一五日 昼一時
総代物故者法要

一六日 朝十一時 お講 中陣
昼一時
白鶴会物故者法要

一七日 昼一時
一八日 昼一時 寺族物故者法要
一九日 昼一時 戦没者追弔法要
二〇日 昼一時 内陣法名法要

説教 里村了学師

三一日 お寺座サロン 夜八時
女優 浜 美枝さんと共に
講演とトークショーとおいしい
お茶とお菓子がついて会費千円。
どなたでも参加は自由です。
主催は善巧寺花の会。

寺 報
善 巧

発 行

〒 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 4 9 7
白雪山 善 巧 寺
☎ 宇奈月 0765(65)0055



法要記念建設事業の起工式(6月30日善巧寺境内で)

七月十四日〜二十日
永代祠堂会

説教 里村了学師

七月十四日から祠堂会が始まります。皆さんでお詣りしましょう。五十人より百人、百人より五百人。少しでも多くの人に参詣して頂き度いと思つて居ります。仏法は、皆さんのものです。善巧寺は皆さんのお寺です。そして、お寺の繁昌は皆様のお力によるものです。今年も富山から里村先生がお説教に御見えになります。ほとけの尊いみ教えを毎日説いて下さる筈です。老いも若きも、男も女も万障繰り合せてみ教えを聴聞して下さい。

「蓮如上人御一代記聞書」に次のようなお話があります。「仏法には、世間のひまを闕てきくべし。世間の隙をあけて法をきくべき様に思ふ事。浅間敷ことなり。仏法には明日という事はあるまじき由の仰に候」

私も年寄りの部類に入るようになりました。その私が、四十代、五十代の若い御門徒の方々に、お寺に説教を聞きにいらつしやいとおすすめすると、一様に変な顔をして「未だお寺詣りする年齢ではないし、第一忙しくてお寺の方角には足が向かぬ」と言われます。世間のひまを闕てきくべしと、蓮如上人が言われたのは世間の用事は後廻しにして、一番大切な仏法を聞けよと仰言つたのです。実

祠 堂 会

みんなでまいりましょう

社会の用事を勤め終つて仕事が無くなったから、お寺詣りでもするかと云うように思ふ事はもつての外の浅間敷なことだと蓮如上人が仰言つたことは、日進月歩の競争社会である今日の日本に生活している人達には理解し難い事のように思われるかも知れません。併し、仏法は、年寄りだけのためにあるのではありません。現代社会の複雑怪奇な実態に触れることが多いほど現代人の心の悩みは深いものになりつつあります。その苦悩を救うのが仏法であり、その仏法を聞く場所がお寺である筈なのです。

私が門徒の皆様と云う時、当然現代社会の荒波にもまれて居る若い方々も含まれているのです。人生如何に生きるべきかを考えるとき、どうして出て来るのは生死の問題です。そして、生死の問題を本當に考えて下さつたのが、親鸞上人に他なりません。祠堂会は浄土真宗の各寺院と御門徒の大切な年中行事の一つであり、親鸞上人のみ教えを聴聞させて頂く大切な機会の一つです。御門徒の皆様の御参詣を心からお待ちして居ります。

住職 雪山 俊之

500年 善巧寺開基 前住職 前坊守 50回忌

記念要法

建設事業スタート



善巧寺は四月十六日、臨時総代会を開いて、平成三年に勤める「開基五百年、先代五十回忌」の「法要実行委員会」を結成し、総務と建設の二部会に分かれて直ちに実動を開始しました。

総務部会は同日よりさつそく法要記念事業計画の趣意書作成に取り組み、実行委員長としての住職の願いと、実行委員会名での、今回の法要の意義、記念事業の必要性、それに伴う募財計画などについての説明書を作成。全門徒に配布しました。

(左頁に転載)

また、その後の部会で、募財についても検討が重ねられ、祠堂会(7月14日、20日まで)、盆会(8月16日)、報恩講(10月19

法要実行委員会結成

四月

十六日

総務・建設の両部会を柱に

日、20日)の期間中に、寺へご志納いただくのが一番ありがたいが、都合でお寺に参れない方もおられることが予想されるので七月下旬より秋までにかけて、寺から未志納の門徒さん宅を一軒ずつ訪問させていただいてお願いするということになりました。何卒よろしくお願いいたします。

さて、一方の建設部会は四月二十日より設計者の岡田正夫氏より、鐘楼と会館の建設に関する細部にわたる説明(写真)を聞くと共に、工事は指名入札にす

慶讃法要の気運高まる

今回の法要については、寺報「善巧」四月号で、かなり過激な表現でことの成り行きをお伝えしましたが、おかげさまで、門信徒の方々への反響も大きく、関心も高くこの三カ月の間に、各地区では熱のこもった説明会が開かれ、県内外の善巧寺を心にかけて下さる方々の激励や厚い志が早々と届けられるなど、慶讃の気運は、日増しに高まってきています。

地区別の説明会は下立愛本、下立、浦山、栃沢など六カ所で行われ、若院と若坊守が出

ることを決め、五月三十日に現場説明六月十日入札。同十二日、黒部市の長谷川工務店にお願いすることに決定いたしました。

工費は鐘楼、会館を合わせて総額およそ六千五百万円。工期は、六月下旬より材木、解体、整地を行い同三十日に起工式。十一月月上旬完成の予定です。

実行委員会では、先に門徒各位に配布しました「趣意書」に合わせて、今回の寺報「善巧」をよくお読みいただいて、門徒各位のご理解ご協力が、深く厚く広まるように、心から願っておりますので、何卒、よろしくお願いいたします。

席、次代にかける寺の願いを聞いていただき、門徒さんからは法要の意義、建設事業の必要性、募財の負担等について多くの質問が出されました。

結論は、寺は門徒と僧侶と仏さまでなり立っているということと、懇志の負担はただけに、強制ではないが精一杯に……ということでした。

なお前号の寺報の呼びかけで、全国から善巧寺のためにと多額のご懇志をお送りいただきました。厚く厚くお礼申し上げます。

募財目標総額 7000万円 懇志目安は一戸当り 1口10万円 志納期間 なるべく7月～10月末までに

委員名簿

委員長	雪山 俊之	副委員長	鬼原 勝次	會計	本波 光雄	総務部会	中山 慶太郎	川瀬 達也	浦滝 友一	中村 忠夫	川口 三郎	沢田 最一	上坂 好次	板川 重盛	板谷 正一	尾村 豊	野崎 吉郎	建設部会	菊地 良造	東狐 幸一	浦山 久雄	佐々木与作	野村 五郎	開澤 信一	森岡 昭二	橋場 正一	中坂 宗作	岡田 実	浦田安次郎
			雪山 隆弘		野島 重一		桒 稔	嶋田 久一	佐々木助一	清水 久一	橋本 庄吉	岩上巳之助	大藪 良造	開澤 泰久	板川 安二	板倉 弘	野崎 吉明		船屋 幸弘	開澤 弘	丸田 賢一	高島 彦久	橋爪伊佐夫	川瀬 久義	島田 松伊	沢田 修	野畑 一雄	浦沢 一郎	谷口 富義

趣意書

住職 雪山俊之

白雪山善巧寺は、今から五百年前に、当地宇奈月町浦山に開基されました。五百年前というと、蓮如上人の晩年に当たり、浄土真宗が全国に広まりつつあり、一揆が各地で勃発していた頃です。そんな折、皆様の先祖の方々が心の拠り所を求めて、熱い志を結集してこの寺を建立されたのでありましよう。

それから三百年ほどの年月が過ぎた頃に、明教院僧録師が住職となられ、「空華学轍の祖」として、偉大な業績を残され、善巧寺の名は日本中に広まりました。その後、年は移り、日は流れ、この善巧寺の住職として私が跡をついでからでも四十年になります。その私も、来年は傘寿を迎えるに至りました。たまたま、来年は、前坊守の五十回忌に当たり、前住職の四十七年忌に当たります。この際、開基五百年、前住職・前坊守五十回忌を併せて勤修いたしたいと思い立ち、ここに筆をとった次第です。私にとつては父に当たる雪山俊夫は、明教院百五十回忌を勤修し、現在の離れを建てて、僧録師の徳を偲ぶと共に、ドイツ中世文

学の権威として、学界にその名を残しました。母、雪山光子も住職を助けて坊守の役をつとめつつ、善巧寺において、昭和十七年八月六日逝去しました。今度の法要は、私にとつては、

法要記念事業について

法要実行委員会

「おさめの法事」であり、心残りなく勤めたい一念であります。記念法要、それに伴う記念事業と、相ともなつて、門徒各位の御助力により、無事に事を運びたいと日々念願しております。意のあるところを、お察し下さるよう心からお願ひして、趣意書といたします。

このたびの法要は、住職の趣意書にいわれるごとく、開基五百年——つまり私たちの先祖によつて開かれた浦山の寺が、五百歳の誕生日を迎えるのであります。そして「博士のごえはん」とお慕ひ申した前住職、前坊守の五十回忌という、めでたい法要が合わせて勤められるのでございます。

門徒の方も、親の五十回忌という、めつたにないご縁に合うと、下新川に伝わる「ごねんきさま」でもつとめようかという気になるものです。家も少しはきれいにして、親せき一同がよろこんで集まってきてくれるような、そんな法事をしたいと思ふものです。

千万、億の金をかけて、木造の文化財的なものと思われるでしょうが、善巧寺では、総代会や専門家の方々ともご相談を重ね、まず少ない予算で、囲りの景観に合ったものを……と、印度の祇園精舎の鐘楼をつつしたコンクリート製のものを建てることに決めました。現代的な鐘楼は各地にあります。諸行無常の響きあり……の原点にもどつたものとして注目を浴びることでありましよう。

つぎに、経蔵と納屋の建てかえであります。経蔵は本来、お経を収納する蔵であり、そこで学問をする場でもありました。これも伝統からいえば古い土蔵ということになりますが、仏法は文化財としてしまつておくものではないですね。みんなに広められてはじめて生きてくるものです。経蔵を図書室にという発想は、当たり前のようですが、なか思ひつかないものでしたが、今回、それが実現できる運びとなりました。それと合わせて、納屋を改築し、現代の若い人たちにも出入りしやすい明るく楽しい事務所と、広間、そして物置とに造り替えることになりました。

さて、予算ではありますが、門徒の皆さまから準備金として三

年前から積み立てさせてもらつておりましたものが三百万円。それに特別懇志を合わせますと、現在の懇志額は一千六百万円（法要特別会計、六月三十日現在）でございます。しかし、目標額はどうしてもあと、五千万から六千万円ほどの金額が必要です。ということは、寺の門徒数（五五〇）を考えると一戸当たり一口十万円という大きな額になります。

募財方法は、①一括・分割のいずれでも結構です。②分割の場合、懇志総額をお知らせ下さい。③完納の方には、内陣法名も上げさせていただきます。④一口十万円はあくまで目安でございます。全門徒一律の義務負担ではございません。大口でも小口でも半口でも、ただだけにご協力下さい。

募財期間は、一応平成二年十二月末日までと願っております。もちろんこれは原則であつて、ご無理な方はお約束だけでも結構です。

どうか、私たちの先祖が熱い心でもつて建立した、この善巧寺を末代にまで受けつげるように、意のあるところをお汲みとりいただいて、この事業を完遂できますよう、心からご協力をお願いいたします。



平成2年 冬の経蔵・納屋

ありがとう鐘楼 おかげさま経蔵 さようなら納屋 杉・樫

いよいよ来年お迎えする
ご法要はこの善巧寺ができて五百年、そして私の父親、母親の五十年のご法事です。私も年をとってまいりまして、四年前に母親の法事のことを思っておりましたが、こんなに長生きできるとも思いませんでした。

若い時に肺病にかかりかけたり、戦争があったりしましたが、なんとか死なずに帰ってまいりました。母の五十年の法事をする事ができるとは思っておりませんでした。なんとか迎えることができるのではないかと、思うようになり、寺の五百年のご法要もいっしょにとめて、立派なご法事をしたいと思うようになりました。

そして、この四月に実行委員会ができて、記念事業もスタートしました。そんなことで、ただいまあげましたお経は、いつものおつとめとちがいで、今日は「お別れのおつとめ」なのであります。みなさまよくごぞんじのように、来年

のご法事には、寺にあります鐘つき堂、お経の入れてある経蔵、この二つを、新しくかえようということになりました。いまの古い鐘つき堂の姿をみるのは、これでおわりなのです。経蔵とお別れですので、そのおつとめをさせていただいたわけです。そこで今日は、

私が覚えておりますかぎりのことを、おはなしさせていただきます。と思います。

昭和二十三年四月、私と、家内と、上の娘と、あかん

ぼうの下の娘の四人が京都から帰ってきました。時には、古い庫裡は荒れはてていて、住む部屋がないくらいでした。その上、蓮如上人のご法事とつりがねの製造も考えねばならない。そのため、みなさま方に四十五万円というお金をねがいました。庫裡の改装に十五万円、つりがねに十五万円、法要に十五万円でした。その時に多額のご懇志を出していただいた方のお名前が、いま



6月16日のお講で話す住職

も鐘の裏側に刻まれています。そして佐々木大樹先生の天女の彫りものがあります。その佐々木先生が「高岡でいちばん響きのいい鐘をつくる」といわれたお店でつくってもらいました。あつい夏の日に、総代さんと一緒にそれを見に行ったのを、い

りません。みなさまの大事なお金を、これまで、つりがねのために出していた、庫裡を建てなおし、空華殿を建てなおす時も、また本堂が雨もりをして、大屋根をふきかえる時にも出していた、ありがとうございました。

考えてみますと、みなさまとお寺とのご縁は、お金を出していただくことばかりのように思います。申しわけない気もいたしますが、どうかよろしくお願いいたします。ところで、私も年をとりましたが、こうしてなんとか、みなさまにお話することができるよう。若はんもお話が上手なので、きょうは、テレビ局が取材にきてくださっております。そして、一日と十六日のお講には、みなさま方がたくさんお集まりくださる。こういうお寺は、いまほとんどないのです。また今日は、総代の方々もおまわりくださいました。私もこうして、お話をさせていただくことができて、こんなにうれしいことはございません。どうか今後も、よろしくお願いいたします。

六月十六日のお講における住職感話

先の住職のおはなしでお分りの通り、六月十六日のお講では、長い間お世話になったつりがね堂、そして一切のお経が入った経蔵、さらには納屋へのおわかれのおつとめがあったわけです。

その後境内の櫓、杉などの立木が伐採され、境内の建物がきれいにとりのぞかれ、六月三十日には、長谷川工務店など建設関係者ならびに実行委員会の方々が集まられて、法要記念建設事業の起工式が行われました。



6月30日、境内で行われた起工式

二十一

二十一世紀の七堂伽藍今秋完成

しらべるといふような説があります。これはつまり、宗派によってもちがうわけですが、原点をたどれば、まずインドでは「サンガラム」といいました。意味は仏さまの教えを聞くお仲間の施設ということ。これを中国で漢字になおして、僧伽藍摩と書いた。これの上下をとって伽藍とな

ったということです。でそこには、中心にお釈迦さまのいらっしゃる香室。それから僧房。さらには講堂。浴室（衛生を保つための風呂）：こういったものがあつたといわれています。これを伽藍ともいい、精舎ともビハールともいったわけです。その後、時代を経て、伽藍もいろいろ変わります。

日本ではその昔、金堂・講堂・山門・塔・経蔵・庫裡・鐘樓の七つがそろったものを七堂伽藍といいました。

では、これからの二十一世紀にむけての七堂伽藍で大切なものはなんでしょう？ まず第一に、「仏さまの教え」がなくてはならない。仏さまが中心であるということとはゆるぎない変らないこととあります。その仏さまは本堂にいらっしゃる。そしてその教えはというと、今までは経蔵の奥深くにしまわれていたわけですが、それを広く多くの人たちに知っていただく、読んでいただく、ということと図書室へとかわつてくるのが本当でしょう。

第二の条件は、やはり浄土真宗のみおしえは十方衆生が救われるということとありますから、仏さまの教えを聞く多くの人達が相つどい、語らう場所がなければならぬということとあります。仏さまがただコロンといらっしゃって、遠くからそれを眺めているだけでは、はつきりいつて生きた寺とはいえません。生きた寺とはどういう寺かと

いえば、念仏の生の生きた寺であります。それにはやはり、「門徒の方々が相つどい、相語りあう場所」がなくてはならない。そういう意味で今回の法要記念建設事業では、経蔵を図書室に。そして、さらには若い人たちも集まりやすいサロン風事務所。門徒の方々が一同に会せるような広間に大きなスペースをとっております。

もちろんこれは、趣味やせいたくで建てるものではありません。普通なら木造の寺院建築そのままの鐘樓を建てねばと考えると、それは、それも大切なことかもしれないですが、そうした一つのつり鐘堂をたてるのに必要な経費をさらに有効に使うべく、つり鐘は木造でなくコンクリートにします。それも原点にたちもどった「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常のひびきあり」というあの祇園精舎に建立されているイン

ドの様式のつりがね堂をそのままつぎやうに建てたい。そしてその余った費用で、境内に門徒会館、つまり、図書室と事務所と広間を含んだ「門徒の人たちがあひ集える門徒会館」を建設することになったわけです。さて、これからの七堂伽藍に大切なのは第一に仏さま、第二に門徒さんが集える場所。しかしこれだけでは一つ足りないものがあります。それは寺のものです。念仏の実践者として仏さまのみおしえを家族全員でうけとり、それを広めてゆく仕事をさせていただく寺の僧侶や家族：これも、忘れてはならないものの一つに加えていただきたいと思ひます。

かつてある総代さんが「寺は眠っているはだめだ。眠らせておく門徒も悪い」とおっしゃいましたが、まさにその通り。眠っているは骨とう品の死んだ寺になってしまいます。生きた寺、開かれた寺は、仏さまと門徒さんと、寺のものが一つになつて、念仏の声を、世界に、子や孫に伝えてゆく寺であります。今回の事業がその大きな飛躍への礎となることを願ってやみません。

これは六月十六日と七月一日のお講の若院の法話を中心にまとめたものです。

A black and white photograph of a man with dark hair, smiling at the camera. He is wearing a dark, possibly knitted, garment over a light-colored shirt. Behind him is a wall covered with several framed abstract drawings. To his left, a drawing features a large, dark, angular shape with internal lines. To his right, a drawing depicts a tall, narrow structure, possibly a tower or a stylized figure, with internal details. Above the man's head, a portion of a drawing with a curved line is visible. The overall setting appears to be an art gallery or a classroom display.

個性よ目を覚ませ



記者云、かんてん
屋さんか、おれさ
んなに主としてい
られるのだから、平
橋の歌の調子に韻を
あわせて、子供た
ちの胸にまで目ざ
く、伝播せよとなら
ない。ものに、こ
れを、おれさんな
人、おれさんな人、
おれさんな人、



ナショナルパナパル誌「浜美枝のこの人に会いたくてシリーズ」に

「毎日新聞富山版」6月4日付

産経新聞連載 5月24日付

道というのは、すべて仏道に通じる。道と名のつくものは終じて、極めれば悟りにつなげるものである——と前回に書いた。「うん、なるほどそんなものだ」と、理屈でわかったような気分になった人々も多いみたい。

しかし、突然にその道を極め、悟りの境地にひたっている人はいるだろうか？ 残念ながら、いない。一人もないといっている。このシャバで悟ったふりをしているやつはいるかもしれないが、本当に覚者＝ブッダり仏となったものは、今を去ること三五百年前のインドに生きた、ゴータマ・シッタッタ、つまり、おしゃかさま以外にはいない。

それはお前が坊主だからそう思うだけで、世の中に悟った人間はいっぱいいるんじゃないのかい？という人もいる。そうか、そう思うのなら、それはそれでいい。

ものがいないのか。どうしてわれら凡夫は悟れないのか、救われないのか—という疑問を少しでも持つのなら、しばらく眺みつづけてほしい。

そうた。私は凡夫た。いまいった、われら凡夫—というものは凡夫ゆえに、とうがんはたつて仏にはなれないの

とチクシヨウとアシユラと人間と天上界—という六つの道をめぐりめぐって落ちてゆく。

地獄って何た？ 赤鬼やら青鬼やらがいて、ウソをついたら舌を抜かれると—なんてのを聞いたことがある。あれは本当た。お経にも書いてある。ウソついたやつ

凡夫と地獄

っておが、こ
 の、凡夫とは、
 平凡な人間のこ
 とくらに思っ
 ていたら大間違
 いで、悟れる仏
 から見たわれわ
 れ人間のこと
 で、とにかく極
 悪、最低、どう
 しようもないシ
 ンじい、とかいうところへ
 落ちて舌を抜かれる。一枚ぐ
 らいどうってとない。おれ
 は一枚持っているなんて威張
 ったってはいまわない。一枚
 抜けたら涼しい風が吹いてき
 てまた生えてくるのである。そ
 してまた抜かれ、また抜かれ、
 ちよいと一億六千万年ぐらいい
 それがつづくと書いてある。
 ンッとしようもないか。

そういう私たちだから、道
を極めるなんてとてもじゃな
い。行きつくところは、悟り
の境地―極楽と云うか、地獄
にまっ逆さまに決まっている
のだ。

行ってそんな責め苦を受ける
というオハナシではなく、地
獄とは、まさに、今現在の私
の心の中にあるものだという
ことをお知りおき願いたい。

ハラを立て、他人を責め、

道ある宗教家のガン体験
雪山隆弘

他人を説き、自分にとって都合の悪いものは消えてなくなれと思っている、その心のまゝが、じつは地獄そのものののだ。不思議に思われるかもしれないが、わが心の地獄を見つめることができる人を、心豊かな人と呼ぶのである。(富山・善巧寺、四十九歳)

全国からの
お見舞、お励ましに
心から感謝しております

本願寺新報より

亡くなられてゆく方々に安らぎをと、各地でビハラ運動が盛んになってきた。本山では五月二十四、二

十五日、第四期生の研修会。そして翌二十六日には「富山ビハール」が発足した。富山教区の基幹運動推進委員会の社会部が中心となって準備を進めていたのだが、僧侶、医師、坊守、一般の人と百人を超える会員数が登録されたという▼真宗門徒として、あるいは念仏者として、何かのお役に立てれば、という切なる思いが、こうした運動への参加につながってくるわけで、やはり、ビハールの具体的な行為を伴ったものは、反響が大きいようだ。もちろん、その底には、これまでのタブーが破られ、死について考える、死の準備教育について学習するというようなことが、ようやくわが国でも認知されるようになったことでもあるかと思う▼ところで、その「ビハール富山」の設立記念フォーラムでのこと。出席された先生の中で、国立がんセンターの種村健二朗氏の言葉が、多くの人の心を打ったので紹介しておこう。「ビハール」といって、末

長男俊隆得度

八月一日のお講で披露

行信教学校長から明教院の心も学ぶ

善巧寺の若院の長男、

俊隆は現在、京都の平安高校に在学。仏教コースを選択して二年生になりましたがこのたび、めでたく、僧侶になるべき「得度習礼」を受けることになりました。

期間は七月二十一日から三十一日まで。京都本願寺西山別院できび

しい「修行」をするわけですが、自らすすんで「住職になる資格は平安を卒業すればいただけるけど、僧侶の資格はこの夏休み……」と。

さらに下宿先の若院の郷里、利井常見寺では、前任職で行信教学校長の祖父、興弘師に、明教院僧侶の心を学ぼうと、毎日曜日に個人講義を受けています。

八月一日、無事に得度習礼を終えて帰ってくる予定ですので

お講の法座を「まろはん」のお

長女有花 善巧寺に「就職」内定

若院の長女、有花は現在本山

系の武蔵野女子大学に在学、四年生になりました。普通なら就職戦線真只中なのですが、寺の現状を熟慮のうえ、善巧寺に「就職」。

二男教隆も法事に出勤

また次男教隆は魚津高校在学一年ですが、住職をたすけてお経会や法事などに出させていたでおります。それぞれにうれしいことであります。

導師でつとめて、門徒の皆さまに「得度披露」をさせていただきます。善巧寺のあつぎ誕生、どうぞ祝ってやって下さい。

六月十二日 火 薄曇り
朝食後、新聞を手に書斎に入る。最近、急速に集中力が無くなって来たことに気付く。例えば、新聞を読むと云う事にして、知識欲、好奇心は何処へやら、読んでもよし、読まなくてもよし、そのくせ時間だけはかけて、あつちこつちと拾い読みをする。系統的に物を考えることが難儀になって来たのだらう。今日は、参院福岡選挙区補欠選挙で六十四才の女性が四十三才の男性に十二万票以上の大差で勝ったこと。プロ野球セントラルリーグで、阪神岡田と中日落合がホームラン争いで目下十五本同志で並んでいること。(広島球場のナイターで落合十六になる。)立山剣の名ガイドがジン不全のため

六十一才で亡くなったこと。が頭に残る。九時半、自動車で中陣に向う。浦山中陣間約十五分。此処数年間新しい道路がどんどん増えてコースも二転三転している。七十七才の男性のお葬式で、私達が着いた時は参列者が溢れていた。何時ものことだが、亡くなった佛の面影が色々と胸に浮ぶ。カーバイド勤務が続き、三交代制の不規則な日常だったこと、奥さんが家でささやかに菓子雑貨を商っていたこと、本山団体参拝に一緒に出かけたこと、停年後孫と楽しそうに将棋盤を囲んでいたこと、十数年前、一過性脳虚血症



住職日記

の発作を起し、此の家で寝かせて貰ったこと、断片的な色々の思い出が浮き沈みする。四十年以上になる住職と門徒の絆がどんなに深いか改めて感じさせられる。残った長男もカーバイド勤務で、通された部屋には表彰状がかかっている。十二時帰院。二時、工務店、設計者、門徒総代有志集合。来年の法要の記念事業である鐘楼、会館建設の詰め段階の話し合ひである。善巧寺としては画期的事業であり、各位の善意を呉々もお願いする挨拶。結論として凡て好都合に運ぶことになって一先ず安堵する。

五時、娘婿来院。三年振りである。サウジアラビアでリヤド、ジェッダ、アルコバールの三都市のN商社の店長として勤務。役目を果して、東京の本店に帰任したのが此の六月一日だった。気候風土から風俗習慣すべてが違った土地での色々な話を夕食を共にしながら、耳をかたむける。世界中に日本の観光客が溢れている中で、リヤドには日本人観光客は一人もない由。それだけに、砂漠の中の都市の話は聞いていて面白い。十時就床。

杉大樹

一校動かず梅雨に入る

今年竹

垂直の線たじろがず

寺

八月

一日 お講 生地・中新・石田 長男得度披露



一六日 盆参り

期の患者に、何かをしてあげようという運動のように思われている方が多いようだが、実はその逆であります。亡くなつてゆく人たちは、永遠なるいのちを見つめています。そして、それを言葉だけでなく体全体でまわりの人に伝えようとしています。ビハラの運動は、そうした亡くなつてゆく方の声に耳を傾けて、自らが目覚めてゆく運動だと思ひます。▼患者側からの立場として、私は種村先生のこの言葉によるこびと安らぎを覚えたことを、一言つけ加えさせていたで。

お寺座・雪ん子繁盛記

文化の発信地「お寺座」は、春の再開以来大にぎわいで、三月は「雪ん子劇団定期公演」で幕をあげ、四月は野外で「花の



パフォーマンス」。十万余余りのチューリップが花の万博に協賛。

五月は人形劇団「ひとみ座」の「曾根崎心中」で大かっさい(写真上)。出演者の方々が口をそろえて「主人公のお初と徳兵衛は心中して救われたのか、何百回上演していても、心にひっかかっていましたが、今日、お寺の本堂で上演させていただき仏さまに救われて迷わず浄土に生まれたんだと実感しました」。



そして六月はご存知「野休み落語会」。永さん、扇橋さん、小三治さん十三年目のお運びで、遠く広島からもグループで見物に。

一方雪ん子は春の公演のあと久々の県外公演
福井県
三方町
の花まつり記

念公演で大熱演。フジテレビの同行取材や町をあげての歓迎に子供たちも大よろこびでした。



全国のみなさんに心からよろこんでいただけて、ほんとうにうれしかったです。

また、六月三日には富山市公会堂で「全国ろうあ者大会」が開かれ、雪ん子は十年間の手話ミュージカルの実績が認められて、招待出演。練習には門徒の橋勇一さん(YKK)にもお願いして、手話の特訓をうけたおかげで、

合 掌

「どんなことがあっても、寺のことだけはよろしく頼んだぞ」――父親のこんな遺言を受けて、善巧寺の会計を長くつとめて下さった中新の尾澤初雄さん。その尾澤さんの言葉をいつも聞いていたおいの黒部市で建設業を営みなさっている長谷川工務店の長谷川徹さんが、今回の法要記念建設事業の施工者です。深いご縁を感じます。

何か事があると人は一つにまとまるものだと思います。寺は法要事業と若院の病氣と大事二つをかかえて、いま固い絆に結ばれています。子供達は親のいう事をよく聞いて努力してくれましますし、住職夫婦も精一杯。そして若坊守は、いよいよ七月末から、門徒の方々一軒一軒お願いとご協力、募財集めに廻わる事になります。門徒の皆さんどうか厚い心で迎えてやって下さい。お願いします。



しどうえ 祠堂会ご案内

7月14日
～20日

七月十四日から一週間にわたって、恒例の「永代祠堂会」がつとまします。しどうきょうは、お寺を護る門徒の皆さんの先祖のご法事です。善巧寺ではこの期間中に特別法要を合わせてつとめておりますのでご縁のある方は必ずお参り下さいますように。また今回は「開基五百年法要」の懇志支納受付も行っておりますのでよろし

くお願いいたします。

浦山お経会お初夜 七月十四日
午後七時半。むかしながらのお初夜のお座を、お寺の集会所で里村先生をお招きしてつとめます。どなたでもお越し下さい。

総代会物故者法要 七月十五日
午後一時。なくなられた総代さんのご家族の方、現総代の方は必ず御参拝の上、御焼香を。

白鶴会物故者法要 七月十六日
午後一時。善巧寺仏婦「白鶴会」の物故者ご家族と、現白鶴会の

善巧寺の常例行事

お花の会	お寺の学校	お寺の学校
毎月一日・十六日	正月盆暮れ	毎月一日・十六日
毎月第一火曜日	毎月第二土曜日	毎月第二土曜日
毎月第三土曜日	毎月第三土曜日	毎月第三土曜日

戦没者追弔法要 七月十九日

寺族物故者法要 七月十八日
午後一時。善巧寺、法輪寺、照行寺の寺族物故者の法要です。

内陣法名特別法要 七月二十日
午後一時。例年通り、特別懇志納者の内陣焼香があります。必ずお参り下さい。

戦没者追弔法要 七月十九日